

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■ リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第50回 考えるべき三つのこと

上司になったらまずは、何が評価されその立場になったのか、何を期待されているのかの自己認識を。そして部下の気持ちを配慮して交流しましょう。

まずは自己認識
求められていることは

初めて上司になった人ならば、「さあ、やるぞー」と燃えていることでしょう。そのやる気を正しく生かすためにも、上司となったらぜひ次の三つのことを考えてほしいと思います。

- ①自分がなぜそのポジションに立つことになったのか
- ②何を期待されているのか
- ③部下がどういう気持ちでいるのか

まず自分がなぜそのポジションに立つことになったのかという点に関して、自分なりによく考えてみることで、会社から上司として、指名されたからには必ず理由があるはず。例えば、実績を上げたから、リーダーとしての資質が評価されたから、後輩の指導が上手だったなど、理由はいろいろです。自分の認められた部分や自分の長所とは関係なく、とにかく理想の上司像を追い掛

ける人がいますが、まずは自分の認められた部分を正確に認識すべきでしょう。それは、自分が求められている部分にもつながっててくるはず。期待されている部分、求められていることとは何なのかを正確につかんだら、それに応えるために、何をすべきかを考えていきます。

部下の気持ちに配慮
不安を解消し交流を

最後に、部下がどういう気持ちでいるかも考えておきたい要素です。まったく知らない部下たちのところへ、上司として赴任したのであれば、部下たちは間違

いなく「今度の上司はどんな人だろう：」「前の上司と比べて、仕事はしやすいだろうか：」「付き合いやすいタイプかな：」などと思っているはず。要するに、新しい上司とはどんな人間だろうとい

うことです。その気持ちをほぐしてあげて、安心して仕事に取り組めるようにするには、できるだけコミュニケーションを取っていくことです。『上司のルール』より転載

1, 2, 3

